



## 📄 今月の桃やき！

1

～ 努力ということは何ですか ～  
カナイエ・カトリーヌさん

プチ吹き

空手を始めてから、頭で考えないで体で覚えるのは大切だとわかりました。弓道もそうですね。そして、勿論、基本は重要です。

今まで間違えていました。上達する事を焦ったようです。これからもう一回ゼロからやり直して一步一步を大切にしながら弓の道を歩みたいと思います。

プライドを捨てて、失敗を受け止めて、自分の弱点を認めて、少しずつ進みたいと思います。そして周りにもっと関心を持つことも大切ですね。

道場だけの事ではなくて日常の生活のなかでこの気持ちを生かした方がもっと意味の深い人生が送れるのではないかと思います。

その為に努力が必要でしょう。

ところで、皆さんに努力について聞きたいです。

努力と言う事は何ですか？

自分が努力をしていると意識をしていますか？（自分から努力をしようと思っていますか？又は自然な現象だと思いませんか？）

どの場合に努力をしていると思いませんか？

努力をしている時に苦しいですか？楽しいですか？その他？

ご意見をお待ちしております。

よろしくお願いいたします。

## 📄 雀額考

2

カトリーヌさんから受け取った桃やき！への寄稿文を読んだとき、正直、はっとする思いでした。努力することとは何であるかという問いかけは、ここしばらく自問していませんでした。カトリーヌさんのおっしゃる「自分が努力をしていると意識をしていますか？（自分から努力をしようと思っていますか？又は自然な現象だと思いませんか？）」という一説は、妙に心にとどまって感じられました。

努力が自然な現象であるか、それとも意図的なものか…。確かに、はっきりとこれという答えが出せません。ですが、努力に対するカトリーヌさんの問いかけについて自問していると、ふと1月号で望月先生がひかれた弘法大師の言葉、「仏道遠からず、廻心すなわちこれなり（正しい道は遠くにあるわけではありません。あなたが今見ている道にほかならないのです）。」という一節が思い起こされました。私は僧侶でも居士でもありませんので、弘法大師の言葉の本

意など分かりません。でも、カトリー又さんの問いかけに対してこの一節は、一つのヒントになるのではないのでしょうか。

努力は、言葉の響きとしてはとても心地よく、しかも、その姿は称賛の対象となることが多いと思います。「一生懸命努力する姿は美しい」と私も思います。しかし、一方で本人が努力していると「信じて」周囲がそう解釈しない場合もあります。それは場面に応じて様々な事例が考えられますが、押し並べてそういった場合、努力をしている本人は心苦しさを感じてしまうのではないのでしょうか。主観的努力と客観的努力、そういった二分的な考え方ができるものなのか否かはわかりません。しかし、周囲が努力と認めてくれる努力とそうでない努力があることはどうやら事実のようです。

私は、「自分が努力していると意識している」ときは、周囲がどのように判断するかが重要なのではなく、自分が本当に研鑽に勤めているかが重要なのではないかと考えます。そういった意味ではカトリー又さん曰く「**自分から努力をしようと思って**」いる立場なのかもしれません。しかし他方、その努力は周囲からの期待に応えたい、もっと高いところを目指したいという心の奥底から湧き上がる動機のようなものがこれを後押しすることも否定できません。其の点では、「**自然な現象**」といえないこともないのではないかと思います。ただ、先にも述べたように研鑽することでこれを裏付ける必要があると思います。「**プライドを捨てて、失敗を受け止めて、自分の弱点を認めて、少しずつ進みたい**と思います。そして周りにもっと関心を持つことも大切ですね」というカトリー又さんの言葉はとても重要で、ただ努力していても、それが誤った（どういう意味で誤っているかは場面によって異なるでしょうが）ものであれば、むしろその努力は危険なことといえると思います。努力の誤りの修正は、やはり己が仲間、言い換えれば師や先輩・同輩、そして後輩に学ぶこと（教を乞うだけではない学び）が必要になるのだと思います。優れた弓道の師範よりも、日々自分の弓を眺め続けてくれている己が仲間の一言が如何に重要であるかを説く師範も居ると聞きます。まさに「**仏道遠からず、廻心すなわちこれなり**」なのではないのでしょうか。